

第5期中海湖沼水質保全計画（素案）に係るパブリックコメント実施結果について

平成21年12月
水・大気環境課

1 意見募集内容

第5期中海湖沼水質保全計画の策定に当たり、計画素案に関して意見募集を実施した。

2 意見募集の期間

平成21年10月14日（水）から11月9日（月）まで

3 意見件数

（1）総数：31件（郵送4、ファックス9、電子メール13、その他5）

（2）主な意見の概要

ア 生活排水処理施設整備

意見の概要	意見に対する考え方
米子市は合併処理浄化槽と公共下水道の双方を検証し、期間を定めて生活排水処理施設の整備をすべき。	<ul style="list-style-type: none"> 米子市では、带状に市街地が形成されており効率的な処理が可能である等の理由から、下水道により整備を進めることとしたところ。 中海流域では平成40年代前半には下水道整備を完了する予定であり、整備が長期間見込めない地域には、補完的な措置として、合併処理浄化槽の補助制度を設けている。
下水道化が進んだ現在でも水質が悪化したままということは、流入要因が主たる水質悪化の原因ではないのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> 中海の水質の汚濁機構は複雑であり、未解明な部分を含む様々な影響を受けている。 水質は長期的には改善傾向が見られているところであり、引き続き生活排水等の陸上からの負荷や湖内で発生する負荷の削減の他、汚濁機構解明等の調査研究に取り組む予定。
農業集落排水浄化槽未設置家庭への促進を進めるため、各町担当者と自治会関係者が具体的に行動してはどうか。	事業主体である米子市では、下水道と同様に処理区域内の住民に対して、生活排水を処理施設に流入させるよう普及促進の徹底を図ることとされている。

イ 親水護岸・浅場造成

意見の概要	意見に対する考え方
環境教育の一環として、浅場の造成を要望する。安心して水に親しみ、遊べる所を何処かに作り、そこから関心を高めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 中海では平成16年度から国土交通省が浅場造成に取り組んでおり、引き続き5期計画期間中に米子市大崎地区で浅場造成が行われる予定。 県としても、浅場及び藻場の造成等による湖岸域の環境改善などについて国に要望しているところ。

ウ 海藻対策

意見の概要	意見に対する考え方
流入河川の浄化対策では水草等の刈取りの大切さに触れているが、湖沼の浄化対策としての中海の「モク採り」は必要ないのか。	<ul style="list-style-type: none"> モク（海藻：シオクサ、ホソジユズモ、オゴノリ等）の実態を把握し、関係機関と連携して対応を検討していく。

エ 非特定汚染源負荷対策

意見の概要	意見に対する考え方
農繁期に川が濁ることがあるので、農業排水の濁水対策をすべき。	農繁期（田植え時期）の濁水対策については、関係機関との連携を図りながら、適正な水管理の徹底のために、浅水代かきの徹底等の対策を図ることとしている。
今年度実施した加茂川等の川藻の刈り取りを、来年度はさらに範囲を拡大して是非実施していただきたい。	河川環境の改善を図るため、河川管理者である県が藻刈りを実施したところであり、今後も引き続きボランティア等の協力を含めて取り組めるよう検討していく。

オ 新たな水質浄化技術の検討

意見の概要	意見に対する考え方
貧酸素対策について土木工事だけでなく技術的な検討をすべき。	貧酸素対策に係る技術については、全国的に様々な事例があり、それぞれ一長一短があるため、科学的に有効で費用対効果の面からも優れていると認められるものについては、今後の施策の参考にする。

カ 漁業振興

意見の概要	意見に対する考え方
二枚貝の養殖の復活による漁業振興と生物が有する環境修復機能（海中ビオトープ）を併用した養殖実証試験を行ってはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中海の自然再生のため、県衛生環境研究所では水質浄化機能のあるサルボウ貝の再生を目指し島根県、島根大学等と共同研究を行っているところ。 ・ 県水産試験場では、かつて漁獲されていたサルボウの復活に向け、採苗や養殖の試験を開始したところ。
中海再生のため「漁業の復活」の視点を入れてはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期ビジョンの中で漁業等の産業への視点も盛り込んでいるところ。 ・ 中海の漁業振興を図るため、県水産試験場では美保湾を含めた有用魚介類の育成場となっている中海の有用魚介類と海洋環境の関係を調査している。

キ 普及啓発

意見の概要	意見に対する考え方
長期ビジョンの達成のため、取組が地域に根付くよう、住民への啓発や次世代へつなげる取組に力を入れていくべき。	<p>対策の着実な実施や計画の定期的な見直しを行うとともに、広報啓発活動等の他、地域住民、団体、行政の互いの情報発信、情報共有等を通じ、地域全体としての一体感の醸成に努める。</p>

ク 計画策定の在り方

意見の概要	意見に対する考え方
中海の水質はだんだん良くなってきていると感じるので、引き続き負荷削減を続けてほしい。	<p>中海の水質は長期的には改善傾向が見られているところであり、引き続き生活排水等の陸上からの負荷や湖内で発生する負荷の削減を基本としつつ、新たに非特定汚染源負荷削減としての流出水対策等に取り組むこととしている。</p>
長期ビジョンは素晴らしいが、工程表が無く、具体策に乏しい。また、関係する自治体ごとの個別課題について全く述べられていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期ビジョンについては、その実現に至るまでの道筋を示したものであり、計画の定期的な見直しにより、段階的かつ着実な水質改善に向けた各種対策に取り組んでいく。 ・ 湖沼水質保全計画は両県が共同して作成することから、個別課題については県別に明確になるよう記載しているところであり、市町別の記載までは行っていないが、計画策定後の普及啓発において、関係する自治体毎の個別課題についてよりわかりやすい情報提供に努める。

ケ 堤防開削

意見の概要	意見に対する考え方
中海の水環境を取り戻すためには、反時計回りの潮流を取り戻し、青潮の原因となっている浚渫窪地を埋戻すことが最優先。森山堤の開削の効果を検証し、一層の開削や別の堤防の開削を視野に入れた水質の改善を図ることが必要。改善には自然の力（潮の干満）を有効利用すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 堤防開削については、森山堤の一部開削を行うことで、事業主体の農林水産省と鳥取・島根両県の間で合意がなされ、平成21年5月に森山堤の60m開削工事が完成し、通水が開始されたところ。 ・ 今後は、開削後の水質の影響等について継続してモニタリングを実施し、その結果を見ながら中海水質改善対策協議会等において必要な水質改善対策について幅広く検討していく。

コ 地形改変

意見の概要	意見に対する考え方
水鳥公園より米子湾側の位置で美保湾に通じる水路を開くか、島根半島を切って水路で日本海と通じ、中海の汚れた水を海に出し、きれいな海水を入れてはどうか。	<p>地形改変については、外海の海水の導入による水質改善効果が見込まれる一方、流入した海水が滞留することによる貧酸素化等の悪影響や半島開削に伴う周辺環境変化が大きいことが予想される。また、多大な工事費が必要と考えられるため、現実的な選択肢として検討することは難しいものと考えている。</p>